めいろうこどもえん　10月園だより

２０１７年度　年主題〈愛されて育つ〉

0･1･2歳児１０月主題　「うごく」

月のねがい

◎保育者と一緒にさんびかを歌う
◎戸外で気持ちよく遊ぶ
◎身近にいる保育者や子どもの真似をしたり、試してみたりする
◎見えない神さまの存在を感じ、共に礼拝する
◎リズムに合わせて身体を動かすことを喜ぶ
◎秋の自然の中でのびのびと外遊びを楽しむ

3･4･5歳児１０月主題　「動く」

月のねがい

◎神様のくださっている力と知恵を合わせて、共に過ごす
◎生活や遊びの中で、自分の気持ちや考えを表現し、友だちや保育者と伝え合う喜びを味わう
◎いろいろな遊びの中で、身体を充分に動かして楽しむ
◎気候の変化を体で感じながら、衣服の着脱や休息の調整をしようとする

今月の聖句　「たねまくひとは、みことばをまくのです。」

マルコ4:14

聖書の言葉は人類に平安と幸福をもたらす神様からのメッセージです。また、神の愛を受け入れると、死後神の国に受け入れてくださいます。

聖書を聴く者、あるいは読む者の受け止め方に4つの型があります。①無関心型②熱しやすく冷めやすい型③思い煩い型④結実型の四タイプです。種子を蒔く人は神さま。種子は聖書の言葉。四通りのタイプは人間の心を表します。以下、マルコ４章３節～９節より引用いたします。

「種子を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種子は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった（無関心型）。他の種子は石だらけの土の少ない所に落ち、芽を出したが、日が昇ると焼けて枯れた（熱しやすく、冷めやすい型）。他の種子はいばらの中に落ちた。するといばらが伸びて覆い塞いだので、実を結ばなかった（思い煩い型）。またほかの種子はよい地に落ち、芽生え、育ち、実を結び、三十倍、六十倍、百倍にもなった（結実型）。

以上、イエス・キリスト様がお語りになった内容を紹介しましたが、読者の皆さんはどんな受け止め方をなさいますか？各自、自問自答してください。願わくは、読者が、キリスト様の言葉から、多くの実を結んでいただきたいと希望します。

前理事長　池田公榮

１０月の行事予定

１日（日）	運動会予備日
２日（月）	運動会振替休日（1 号）
８日（日）	市民体育祭参加（年中長児）
１１日（水）	いもほり （仮）
２０日（金）	遠足・弁当日
２４日（火）	すもう大会（年長・年中）
２５日（水）	〃　（2・3 歳児）
２８日（土）	ふれあい運動会（未就園児）

１１月の行事予定

１日（水）	学校へ行こう!(交通安全・年長児)
２日（木）	弁当日
７日（火）	１１月誕生会
８日（水）	避難訓練・牛見学
１８日（土）	入園説明会（11:00 ～）
２２日（水）	クリスマス会予行・弁当日

～秋の遠足～

～おすもう大会～

新採用職員紹介

9月から本園スタッフに加わりました、**美座美和子**です。保育補助として、子どもたちと楽しく関わりたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

言葉にならない言葉

朝夕が涼しく過ごしやすい季節になりました。運動会はいかがでしたか？2学期が始まってひと月、遊ぶときは思いきり遊び、そしてお稽古の時は精一杯頑張って過ごしました。本当に本当によく頑張りました！！たくさん褒めてあげてくださいね。

さて私ごとですが、9月で息子が一歳を迎えました。そんなある日、きりすとこども園へ迎えに行くと、噛まれてしまったと報告がありました。理由はお友だちのおもちゃを横取りしたそうです…しかも2回も！4月からこども園に通っていて、一度も噛まれたことがなかったので最初はびっくりしましたが、よーく考えると遊び方や興味が変わってきたんだなぁと気づかされました。

夏に入った頃から、もも組の0歳児も友だちのすることが気になり始め、1歳児さんは一緒に遊ぼうとしたりお手伝いをしようとしたりし始めました。そんな嬉しい成長の反面、友だちとのトラブルが増えてきました。言葉でうまく気持ちを伝えられずに噛みついてしまったり、押してしまったり…。小さな子にとっては、噛みつきや押してしまうことは『言葉にならない言葉』なのです。そこで、もも組の保育者たちと、噛んでしまったり押してしまったりした子の気持ちや思いを、「おもちゃを取られて嫌だったね」「お友だちとぶつかって痛かったね」など言葉にし、受け止めるようにしてみました。まだまだ言葉で思いを伝えることは難しいですが、少しずつ気持ちを受け止めることで落ち着くようになってきました。友だちとトラブルやけんかになることは相手の思いに気づくチャンスでもあります。今すぐ！とはいきませんが、『言葉にならない言葉』を『言葉』で表し、相手に伝えることができるように、保育者間で知恵を出し合い、丁寧に向き合っていきたいと思います。

大河

～交通安全教室～

～小学校訪問～

～おいもほり～

粘り強く耐える力を！

毎年のことですが、天気はどうにもならないと思いつつ、やはり気に病んでしまいますね。お陰様で、今年は秋晴れの好天に恵まれた運動会になりました。子どもたちは練習の成果を十分に発揮して、元気いっぱいの楽しい運動会になったと確信し、感謝の気持ちでいっぱいです。保護者の皆様のご声援とご協力が、子どもたちのガンバリの源になったことは間違いありません。本当にありがとうございました。

突然の解散騒ぎに紛れて、また新しい政党が誕生しました。この政党についての意見は申しませんが、本来、私たちが生きていく力とも言うべき「希望」という言葉が、批判者たちによって揶揄されることは、余り気持ちのよいものではありません。選挙で選ばれた方は、これから育っていく子どもたちにとって、真に希望の持てる国を創っていく気概を、本気で現して欲しいと願うだけです。

最近、「ネガティブ・ケイパビリティ」という言葉を知りました。簡単に言えば「すぐには答えの出ない事態に耐える力」ということだそうです。「何かができるという能力」ではなく、「できない状況を受け入れる力」のこと。一般的に「ネガティブ」という言葉の響きは、否定的で負のイメージです。何事も前向きな姿勢「ポジティブ」が求められるのが世の常でしょう。しかし、現代では子ども時代から「いじめ」や「引きこもり」、社会に出れば「ハラスメント」や「ストレス」に遭遇することも稀ではなくなりました。ポジティブなマニュアル思考だけでは、ある不測の事態が起きたときに思考停止に陥ってパニックになることが多いとも聞きます。突然目の前に現れた嫌なもの、立ちふさがる理不尽な問題、解決不能の困難な状況…。私たちは生きている限り、自力では解決できないような問題に出会います。無理な解決や現実逃避ではなく、解決できない現実を受け入れ、耐え抜く能力が求められるのではないでしょうか。幼児期にこそ、様々な行事や活動を通して出会う困難や葛藤や挫折の経験も大切な成長の糧と信じたいものです。

この時期を迎えると、いつもレイチェル・カーソンの「センス・オブ・ワンダー」を思い浮かべます。生き生きとして新鮮な子どもの感性（センス・オブ・ワンダー）は、「感じる」心や経験を通して、「知る」ことよりもはるかに大切で、幼児期はこの情緒や感受性を育む時なのだと確信を持って語っています。子どもたちがもっとも活発な活動を展開する実りの時期です。ゆっくりと周囲の自然を観察しながら落ち着いた時間を満喫したいと思います。芋掘り、遠足、すもう大会など屋外での活動を通して、いのちはずむ時となることでしょう。

園長

今井和子先生の
「0歳児から5歳児行動の意味とその対応」より
「1歳児　なかなか寝つかない」

悩み
毎日夜10時ごろまで起きています。
早寝早起きさせないとダメですか？

行動の意味
早寝することで成長ホルモンが分泌します

大人の睡眠は体や脳の機能を“維持する”ためのものですが、乳児期の睡眠は体や脳の機能をつくるためのものです。起きている間に五感を使って得たさまざまな情報を、眠っている間に記憶として整理し、大脳を発達させているのです。さらに、生後３か月ごろからは睡眠中に成長ホルモンが分泌するようになります。
それによって、体の新陳代謝をうながし、細胞組織を修復し再生するので、夜更かしさせず、早寝の習慣をつけることが大切です。

対応法
寝る前の決まりごとをつくり、早寝を習慣にする

夜更かしを防ぐためには、寝る前に入浴する、本を読む、子守歌をうたうなど、決まりごとをつくると、就寝時間が定まってきます。また、就寝３０分前にはテレビを消し、気持ちを落ち着かせ、寝る時間になったら、部屋を暗くして遊べない環境をつくるのもひとつの手です。いつまでも明かりがこうこうとついていると、寝付けないことも多いのです。パパの帰宅が遅く、寝る時間と重なってしまうと興奮して起きてしまうことも。
帰宅時間をずらしてもらうか、遊ばずに本を読んであげるなどの工夫が必要です。また、昼寝は休息にすぎないので、長く寝かしすぎないよう、１時間半くらいで起こし、日中は体を動かして十分遊ばせるのも重要です。